

岡本幸治著 「インド世界を読む」創成社新書 2006年10月20日刊を読む

1. (1) 私が密かに温めている夢がある。

(2) それは 20 世紀の初頭に訪印してタゴールやヴィベカナンダなどと交流し、インド思想の強い影響を受けて岡倉天心が執筆した『東洋の理想』に書かれている有名な一節に触発されたものである。

(3) 天心は東西文明の興味深い比較を行い、東洋の特質を、人生の手段ではなく人生そのものの意味の探求に捧げたこと、それによって世界の大宗教のすべてを生みだしたことにあるとした。

2. (1) 人生の HOW ではなく WHAT を探求する、深い絆で結ばれた二国間関係。

(2) いつの日か、それに近づくことが、私の夢である。

(3) インドはそのような期待を持たせてくれる、奥行き深い文化を内蔵している。

(4) この点にインドというユニークな国家の存在理由があり、新世紀の日印関係が目指すべき新たなアジア外交の理念がある。

(5) 与えられた国際環境に受け身に適応していく外交から、安定し繁栄したアジアを創造するための積極外交を展開するためには、日印関係の前進と深化が不可欠であろう。

(6) 戦後最大の転換期における「構造改革」の必要は、内政に限られてはいないのだ。

P233 ~ 234

[コメント]

1. 東洋の特質は、人生の手段ではなく人生そのものの意味の探求に捧げること、それによって世界の大宗教のすべてを生みだしたことにある。

2. 人生の HOW ではなく WHAT を探求する深い絆で結ばれたインドと日本の二国間関係に近づくこと。

3. 与えられた国際環境に受け身に適応していく外交から、安定し繁栄したアジアを創造す

るための積極外交を展開するために、日印関係の前進と深化を不可欠と考える。

外交における「構造改革」を唱える本著は、日本やインド、アジアの未来を考える上で参考になる。

- 2009年3月14日林明夫記 -